

平成30年第1回六戸町議会定例会会議録（第2号）

平成30年3月5日（月）午前10時開議

出席議員（11名）

1番	長根一男	3番	杉山茂夫
4番	久田伸一	5番	高坂茂
6番	下田敏美	7番	川村重光
8番	河野豊	9番	円子徳通
10番	母良田昭	11番	山本実
12番	苔米地繁雄		

欠席議員（1名）

2番	種市正孝
----	------

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町長	吉田豊	副町長	保土澤正教
総務課長	川村星彦	企画財政課長	円子富浩
税務課長	舘泰之	産業課長	高橋宏典
町民課長	川原徹	福祉課長	外山昌彦
建設下水道課長	小林章	診療所事務長	吉田史明
会計管理者	高橋寿典	教育委員会会長	瀧口孝之
教育課長	吉田英輔	農業委員会会長	金淵盛一
農業委員会事務局長	高橋宏典	選挙管理委員会事務局長	川村星彦
代表監査委員	吉田透	監査委員会事務局長	川村政則

本会議に職務のため出席した者の職氏名

事務局長 川村政則 事務局次長 松橋紀幸
総括主査 井川静香

議事日程

日程第 1 諸報告

日程第 2 一般質問

通告者 10番 母良田 昭 君
1番 長根 一 男 君

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

会議録署名議員の氏名

8番 河野 豊 10番 母良田 昭

会 議 の 経 過

議 長（円子徳通君）

ご起立願います。

おはようございます。

ご着席願います。

本日の欠席議員を報告いたします。2番、種市正孝君から欠席する旨の通告がありましたので、報告いたします。

ただいまの出席議員数は11名であります。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

開議（午前10時00分）

議 長（円子徳通君）

本日の議事日程はお手元に配付のとおりであります。

日程第1 諸報告を行います。

地方自治法第121条第1項に基づき出席要求した者及び委任による出席者の氏名については、お手元に配付してあります出席者名簿のとおりであります。

次に、日程第2 一般質問に入ります。

一般質問の通告者は2名であります。

最初に、10番、母良田昭君は一問一答方式による一般質問です。

母良田昭君の発言を許します。

10番。

10 番（母良田 昭君）

おはようございます。

一般質問に入る前に一言二言発言をお許しいただきたいと思っております。

1月の中旬より寒い日が続いておりますが、毎日のように最高気温がプラスにならない真冬が続き、九州福岡県あるいは熊本県の大雪や高知県での積雪、福井県で数百台の車が3日間立ち往生するなど、局地的に数年に一度という寒波が到来をしております。この低温の影響が野菜の価格に出ており、特に葉物野菜であるキャベツ、白菜、レタス等、高値が続い

ており、これが3月いっぱいには続くのではないかとわれております。

そんな中、熱い戦いを見せてくれたのが平昌オリンピックではないでしょうか。王者と言われた羽生結弦選手の金を初め、500メートルの小平選手、高木姉妹等、金4個を含むメダル13個を獲得。特に今大会は、女子選手の活躍が目立った大会ではなかったでしょうか。私自身、余りルールがわからないまま、最後の一投まで見入ってしまったカーリング女子。「そだねー」、「もぐもぐタイム」は、これからはやるのではないのでしょうか。

オリンピックは終わりましたが、9日よりパラリンピックが始まりますので、テレビの前で日本選手の活躍を応援したいと思います。

それでは、通告に従いまして質問に入らせていただきます。

まずは、金矢工業団地への企業誘致の現状と今後の対応について。

大型木材加工施設ができて3年がたとうとしておりますが、新たな企業の進出がないのかお尋ねをしたいと思います。

また、上北道路へのインターチェンジが金矢にございますが、インターチェンジへのアクセス道路の整備の考えがないのか、お聞きしたいと思います。

次に、空き家対策について伺いたいと思います。

平成28年12月議会において、高坂議員より、空き家の状況の把握と今後の対応について質問がありましたが、その後の調査結果と今後の対策について進展があったのか、お伺いしたいと思います。

また、その結果を踏まえて、空き家情報バンク等設立など考えがないのかお聞かせいただきたいと思います。

以上、2点について壇上からの質問とさせていただきます。

議 長（円子徳通君）

町長。

町 長（吉田 豊君）

皆様、改めましておはようございます。

早速ではございますが、10番、母良田議員のご質問にお答えを申し上げてまいりたいというふうに思います。

まず、企業誘致についてのご質問にお答えを申し上げます。

金矢工業団地への誘致企業の現状についてでございますが、県南地方の拠点工業団地として県が整備した金矢工業団地の工場用地といたしまして、総面積が74ヘクタールでございます。そのうち約53%に当たります39ヘクタールが、現在もまだ、あいているといえますか分譲中というふうになっております。

現在、7社の誘致企業が立地しておりまして、約280名を超える方々が働いております。

また、先日の新聞報道でもありましたとおり、現在のファーストプライウッド株式会社の敷地内に、平成30年度において、新たに大型木材加工施設1社が建設予定となっております。60名以上を雇用して平成31年度に操業を開始されると聞いております。

次に、今後の誘致の対応についてでございますが、県に動向を確認いたしましたところ、今月中には企業誘致にかかわる戦略がまとまり、今後も、製造業を中心に誘致活動を継続していくことになっているようでございます。

町としましても、県と密に情報を共有しまして、連携をとりながら誘致活動を進めてまいりますけれども、企業立地の条件を緩和し、当町としても緩和をし、拡大し、企業誘致を推進するために、六戸町企業立地促進条例の一部改正を今議会で提案しておりますので、ご理解ご協力をお願いしたいと存じます。

次に、上北道路への金矢工業団地からのアクセス道路の整備について、お答え申し上げます。

現在、金矢工業団地から上北自動車道六戸三沢インターチェンジまでのルートは、県道三沢七戸線のみでございます。仮に、工業団地から中津農免道路へのルートを考えた場合、間には沢地もあるため、道路新設は厳しいと思われれます。さらに中津農免道路は農道規格のため、重車両の通行に支障がないよう改良工事も必要となるということになっております。今その農免道をとすることは非常に難しいかなと考えておるところでございます。

町としては、まずは大型車両の通行が増加している町道柳沢・金矢線の整備を優先してまいりますと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

次に、2つ目の空き家対策にかかわりますご質問にお答えを申し上げたいというふうに思っています。

まず、当町における空き家状況の今後の対策についてでございますが、平成29年2月に実施した空き家の調査状況や、六戸消防署との情報連携によるものを合わせますと、75件と把握しております。中には、地域住民からの相談により、空き家の所有者と今後の管理方法について話し合いをしたケースもございます。

今後の対策でございますが、応急措置を講じている空き家につきましては、取り壊しをする方向で作業を進めております。それ以外は、すぐに町が取り壊しなどの対策を講じなければならない緊急性のある空き家はないと認識しておりますので、これらの情報を整理しつつ、町全体を対象とした実態調査と所有者の意向調査を実施したいと考えております。

次の、空き家情報バンク等の実施の考えについてというご質問でございますが、空き家情報バンクを設置している自治体を見ますと、主に空き家の再利用や賃貸を目的に運営されております。

当町では、現在、再利用できる空き家はほとんどない状況であります。空き家情報バンクの実施については、今後の実態調査や意向調査の結果を踏まえて検討してまいりたいと考えております。

以上、ご質問に対しまして、1回目のお答えにさせていただきたいと思っております。

議 長（円子徳通君）

10番。

10 番（母良田 昭君）

まずは、先日の全員協議会で質問が出ました金矢工業団地への町民の就職人数を、わかりましたらお知らせいただきたいと思います。

議 長（円子徳通君）

町長。

町 長（吉田 豊君）

数値、調べてはございますので、担当課長のほうからご説明申し上げたいと思っております。

議 長（円子徳通君）

産業課長。

産業課長（高橋宏典君）

お答えいたします。

現在、金矢工業団地には7社の誘致企業がございまして、町内の従業員の方は69名いらっしゃいます。総従業員数は283名ですので、約24.38%の方が町民だという形になっております。

以上です。

議長 長（円子徳通君）

10番。

10番（母良田 昭君）

ありがとうございました。

二百八十何名のうちの69名と。実際、これから高校生の就職とか、大学生の就職、新聞等で報じられておりますけれども、売り手市場といえますか、それでもって90を超えているという内定率の中で、今後、やはり新しい企業に来ていただいて、何とか地元に残っていただくと。素晴らしい人材に地元に残っていただくためにも、何とか金矢工業団地に、今のIT産業あるいはAI産業等、新しい産業が来ることに期待をしたいと思っております。

先ほどありましたけれども、ファーストプライウッドが整備拡充をして、また新たな人材を受けるということで、これも大変うれしい話ではないかと思っておりますが、今後について、恐らく今の上北道路が青森まで、みちのく有料、第2みちのくを通りまして青森までつながった場合、かなり車の流れが変わってくるのではないかと思っております。また、そのためにも、次の問題に係るんですが、金矢の、今のインターを有効利用した形のアクセス道路、整備を考えていただきたいと。来てから整備するのではなくて、企業を呼び込むためにも、アクセス道路の整備を何とか考えていただきたいなと思っております。

以上、このことについて町側の考えをお願いしたいです。

議長 長（円子徳通君）

町長。

町長（吉田 豊君）

まず、金矢工業団地に新たなる企業の誘致促進をということについて申し上げます。

先ほど申し上げましたように、金矢工業団地は県の工業団地というふうになっております。

実際の、まだ分譲するべき土地が非常に広く残っておりますので、県としても大きな課題として金矢工業団地を見てくれているというのは、お話をする中で理解しております。県のほうも何とか、今ご質問ありましたように、いろんな種類の企業が張りつけられれば、張りつかないかどうか、一生懸命やってくれているということがありますので、私どもとしても引き続き、先ほど申し上げましたように、県とタイアップしながら新たな企業の誘致について相談をして進めてまいりたいというふうに思っております。

また、あわせて、今までは金矢工業団地企業に関しては、六戸は、そこが中心だったわけでございますけれども、他の地域においても、六戸町の中に、もしこの利便性を、地の利を考えてくださって、張りつくような形があれば、今までと違う立地条例、条例という部分を若干変更して、応用のきくような状況にしたいなというふうに思っておりますので、ご理解を賜ればというふうに思います。

また、道に関しましては、県のほうも非常に大きな課題として捉えております。七戸三沢線という県道という部分を、歩道と含めてどういうふうにしていくかということは、今後の課題になってくるかなと思っております。また、次の通告にもありますので、ちょっとあれなんですけれども、道路は前からの大きな課題でございますので、何とか、まず上北道路に接続する。そして、利便性のいい状況を、今よりも高めなければいけないと。

また、あわせて、こちらの十和田三沢線にかかわる県道、そちらにつながっていきますこの柳沢線というやつ、道路も、これは町道でございますので、私どもとしても、距離も結構ありますので、計画的にその状況を把握しながら整備を進めていかなければならないというふうに認識しているところでございますので、ご指摘のとおり、重要なところだなというふうに捉えておりますから、今後においても金矢工業団地のため、またその発展のために努力してまいりたいというふうに思っております。

議 長（円子徳通君）

10番。

10 番（母良田 昭君）

今、出ましたけれども、柳沢金矢線ですか、ちょうど県道三沢七戸線とぶつかるわけですよ。あそこが結構傾斜があつて、冬場とまってしまうと、なかなか出られないと。と、もう一つは、朝、結構、三沢七戸線が、三沢への通勤でかなり混み合います。あそこに、企業

だけでなく、お互いの通行を考えて、できるのかどうかわかりませんが、信号機を設けるとか、もう少し見晴らしのよい環境というか、道路環境につくり変えていただけないのか、そこをちょっとお聞きしたいと思います。

議 長（円子徳通君）

町長。

町 長（吉田 豊君）

工業団地の入り口に当たります交差点に関しまして、信号等を設置してもらいたいということで、もう十数年前になると思いますが、金矢工業団地連合会のほうとともに青森市のほうまで出向きまして、信号設置にかかわる願いをしたこともあります。そして、あその調査も行っております。その中で、まず、今ご指摘ありましたように、傾斜地等もあって道路等の形状をどうにかしなければならないのではないのかということもありまして、信号でとめてしまうのはどうかというのもありましたので、今のままになっております。

今の信号等に関しては、毎年、要望として、29年度もそうでしたが、お願いをしているところでございます。県の公安委員会の答えでは、今、現段階ではちょっと設置するのはいかかという答えを、去年の12月かな、そちらのほうから六戸町に来まして、残念ながら設置ということではなくて、ちょっと状況をまだ見たいという話を聞いておりますので、私どものほうとしては、今ご指摘のような危惧される点がありますから、できるならば理解してもらって、設置してくれるように、今後もお願いを続けてまいりたいなというふうに思っています。

形状に関しては、道路の状況に関しては、六戸町の町道にかかわる部分も、もちろんなんでありますけれども、それを改修するということになりますと、まず、こちらから行くと勾配がきつくなるというのがありますが、それはさておいて、考えようかということになりますと、町単独ではなくて、県道との相談をし合ってやっていくということが必要になりますので、かなり大規模な道路改修工事という部分を、計画を固めてやっていかなければ、あその道路の勾配といいますか、信号のそばの、それを改修するというのには厳しさがあるのかなというふうに思っておりますので。ただ、課題であることは、もう以前から捉えておりますので、ご指摘のように努力してまいりたいというふうに思います。

議長 長（円子徳通君）

10番。

10番（母良田 昭君）

今も出ましたけれども、恐らく上北道路が青森につながると、流れは変わると思います。今言いました柳沢金矢線ですか、あれ以上に、今度は県道三沢七戸線に、恐らく今のファーストプライウッドが拡充になれば、また台数はふえるのではないかと。となれば、金矢の町内を通過してインターに上るといふ形になると思います。ご存じのように、金矢ですね、農業地帯として大型機械も通るといふことで、1カ所、車が見えなくなる地点があります。あれも危険です。といふことで、何とか迂回道路といふますか、バイパスといふますか、中津農道ではありますけれども、それに迂回をして、一方通行的な形でインターに上れる形ができれば、住民の方々も安心をして生活できるのではないかと。もう一度伺いますけれども、その考えがないか伺いたいと思います。

議長 長（円子徳通君）

町長。

町長 長（吉田 豊君）

まず、現段階での結論的に申し述べますが、先ほどお話ししましたとおり、新たな道を、中津道路を一つの例として申し上げましたが、そちらのほうでアクセス道路をつくるというのは、現状としては、ほとんど厳しい状況といふふうに捉えていただきたいといふふうに思います。

まずは、私どもとしても、ご質問もありますので、県道七戸三沢線の歩道を含めて、どのように整備をしていくのかといふところ、今後の通過車両もふえるであろうといふことをお話ししながら、整備をしてくださるよう県の方とも相談してまいりたいといふふうに思いますので、ご理解を賜りたいといふふうに思います。

議長 長（円子徳通君）

10番。

10 番（母良田 昭君）

わかりました。

次の質問に入りたいと思います。

先ほども言いましたけれども、現状の把握が第一かなと思っております。空き家対策です。私がお願いしたいのは、廃墟ではなくて、まだ利用できる空き家に対してお伺いしたいと思います。

先ほど、町長から利用できる空き家はないと言いましたけれども、実際、私の町内を見ましても、28戸ある中の4戸が全然住んでいない。しかしながら、手を加えなくてもそのまま住めると、4件とも、私は見ております。そういう形の中で、今後、町がどういう形で空き家対策をしていくのか、その考えをお聞かせいただきたいと思います。

議 長（円子徳通君）

町長。

町 長（吉田 豊君）

先ほど申し述べたとおりでございますけれども、確かに私どもから見ますと、活用できるのではないかと、物置に使っているとか、所有者がはっきりしてしまして、しかし空き家状況になっているというのがあります。

先ほど、ご質問の中に、空き家の情報バンクというお話がございましたけれども、やはりそれは第三者が見て活用可能かどうかという判断をいたしますので、通常の空き家バンク等に登録されているような状況からいきますと、所有者がある程度リフォーム的な手を加えて、それなりに提供する住宅というような形になるならば、可能性は出てくるのかもしれませんが、先ほど、「ない」と申し上げたのは、ただこのままでどうぞというのは、なかなか難しいという現実でございます。

他の昔からの地域で、住宅を活用するというときには、ある程度の整備をする、または、そこを特別に求めた方がいて、自分で直してという方もいますけれども、そういう方がいらっしゃればよろしいんでありますけれども、私どもとしては、個人の土地に関して勝手に人を世話するわけにもまいりませんので、今のところは、その個人がどのような管理をしているか、そして、本当に真新しく、あいているので、何とか利用しようかというのであれば、ご相談を関係者に受けたのであれば、私どもも動けるのかなというふうに思いますが、私ど

ものほうから、見た感じで意見を勝手に述べられないという、非常に空き家に関しては難しさがございます。

今、一生懸命、1点危険な箇所というところを理解いただいている、いろんな事情がありまして、延び延びになってきておりますが、しかし、ご理解をいただいておりますので、手続き上のことで時間かかっておりますが、私どもとしては、やっとそれを対応できる時期にきたなというふうに思っております。

それもそうなんですけれども、他の空き地においても、住民及び、もしそれが関係者、相続関係だとかいろいろな方がありますと、私どもはそこに手を突っ込むというような意見、また考えを押しつけるというわけにはいかないというのがありますので、この空き家の関連は非常に難しさがございます。

このバンクに関しましても、関係者が明確であって、そして先ほど言ったような状況であれば、そういう空き家の情報のバンクというものを考えることも可能になるかもしれませんが、それぞれ、非常に農村地帯、または相続を含めて、そういう関連の中に難しさがございますので、それらの状況を、先ほど言いましたとおり情報を把握して、今後どのようにするのか検討を加えてまいりたいというふうに思っております。

議 長（円子徳通君）

10番。

10番（母良田 昭君）

今、町長から話ありましたけれども、先日というか1月、新聞に載りました。空き家解消への新制度、県内の不動産関係団体や県で組織する県移住支援協議会、県宅地建物取引協会会長等、空き家相談員登録制度を企画スタートをします。空き家の発生防止や解消を含め、県外からの移住促進を図り、空き家の所有者、移住希望者、市町村担当課などの相談に応じます。空き家相談員の登録制度は県の重点事項の一環として、宅地建物取引士の資格と5年以上の実績と移住相談会の対応や、空き家バンクに登録する物件の掘り起こし、専門家への取り次ぎも担うと、1月19日ですね。それから、1月22日ですけども、団地の空き家に対して、老人ホームや一戸建て改修を補助と。これは県というか国ですね、国が考えて、国と自治体が原則として改修費用の3分の2を補助する制度とあります。

ここで一つ伺いたいのが、シェアハウスに国からの補助があると聞いたんですが、その補

助制度についてお伺いしたいと思います。

議長 長（円子徳通君）

建設下水道課長。

建設下水道課長（小林 章君）

それでは、ただいまのご質問にお答えします。

シェアハウスについての補助ということですが、シェアハウスに限らず、空き家を低所得者や高齢者、それから障害を持っている方などを、住宅の確保に特に配慮する必要がある人向けの賃貸住宅として活用する場合、補助がありますというものであります。

それで、まずそれには、その賃貸住宅として都道府県のほうに登録が必要です。それには一定の基準があります。建物の床面積や設備とか構造、それから、例えばシェアハウスであれば、1人当たりの人数とか、そういうふうなものが出てきます。今現在、青森県内、登録は1軒もありません。青森県内では1軒もまだそういう建物はありません。もし登録されると、改修費用ですね、耐震改修工事とかバリアフリー工事とか、そういうふうなものの改修費用の補助とか。それから、入っている方の家賃の軽減に対する支援措置とか、そういうものがあります。

以上です。

議長 長（円子徳通君）

10番。

10番（母良田 昭君）

ありがとうございました。

先般、テレビにも出ていたんですが、ひとり暮らしの老人が五、六人集まって、そこに入居をして、朝食、昼食を自分たちで自炊をする。夕食は、ケアマネジャーが行って、栄養面なり、今日の出来事とか体調の管理等を行うということがテレビに出ていました。恐らくこれから、そういうひとり暮らしに対しての見回りとかということが、こういう一つの補助を利用した形で、グループホームみたいな形でできれば、ひとり暮らしよりは安心が保てるのではないかなと。そういう利用の仕方、今、県も動いていますし、国も動いています。

昨今の議会改革の中で、町内の学区を回ると一番多いのが、苦情ではないんですが、問題意識として一番出るのが、老人が多い、子供が少ない。3番目にやはり空き家がふえているという問題があります。これを解決する方法として、今言われた空き家を利用した形のシェアハウス、あるいは、今、町では新築住宅への補助も行っていますし、アパートへの補助も行っていますが、空き家に対して、新たな子育て時代の引き込みということを考えれば、まだまだ人口の減少には歯どめがかかるのではないかなと思っていますが、町としてこういう制度を利用して、今後、何とか六戸町に人口を増加する手だてとして考えがないか、お伺いしたいと思います。

議長（円子徳通君）

町長。

町長（吉田 豊君）

今ご質問がありました件に関しましては、都市型、または都市郊外、そして地方、いろいろな、地方においても市街化地域または市街地域、市街化以外の地域、それぞれによってその空き家の状況というものは違ってきているだろうと思います。そのシェアハウス等におきましても、特に市内であったり、いろんなことがありますと、ひとり暮らし等含めてやりやすいといえ、希望をとれば、また、所有者の意見を聞いてやれば、可能性が高いかと思いますが、非常にこの地域は散在しているというのがあります、家があれば人が集まるのかというと、そうでもない。または、住んでいっちゃっても、それぞれ1人が、自分の家として暮らしている方が多いものですから、私どもとしては、まずは空き家の所有者が、そのような活用ということがあるならば希望するのかなのか。そしてまた、ひとり暮らしのところまで延長できるかどうかわかりませんが、何か機会ありましたら、そういうようなシェアハウスの意味合いのことを望むものなのかなのか。そういうことを踏まえた調査という部分が必要になるかなというふうに思っております。

今現在、私どもが、こうしたほうがいいですよと言いましても、やはり自分の家に住んでいる方々、その方々を、こっちに来なさいというようなニュアンスで捉えられるような施策というのは、なかなかこっちから決めつけてはできないなと思っておりますので、まず意向調査といいますか、そういうものを含めた福祉の部分と空き家対策という部分で考えてまいりたいというふうに思います。

国等の施策の中には、地方もあるとは思いますが、相当、都市郊外とか、そちらのほうの空き家というものが考えられているのではないかなと。パーセンテージからいきますと、空き家状況は六戸もあることはあるんですが、ほかから見れば特別多い地域ではありません。そして、建て売り住宅だとか、そういうようなものではなくて、個人のあれなものですから、ちょっとニュアンスが、それぞれ平均的に思うものとは違うのではないのかなというふうに思っておりますので、まずは調査をまた続けていくというふうにしたいと思っておりますので、ご理解をいただきたい。現時点ではこういう状況であるということをご理解いただきたいなというふうに思います。

議長 長（円子徳通君）

10番。

10番（母良田 昭君）

ありがとうございます。

何もしなければ恐らく空き家はふえる一方かなと。ご存じのように、人が住まない家というのは本当に傷みやすい。わかっていらっしゃると思いますが、これに、やはり一歩前に出て、空き家バンクなり、そういう形の制度を皆さんに、空き家になる前に、やはり皆さんにお知らせをして、1軒でも空き家をなくすることを望みたいと思っております。

以上で終わります。

議長 長（円子徳通君）

答弁はよろしいですか。

これで10番、母良田昭君の一般質問が終わりました。

引き続き、1番、長根一男君は一問一答方式による一般質問です。

なお、ここで休憩はとりませんが、引き続き行います。トイレ等での退席は許します。

それでは、長根一男君の発言を許します。

長根君。

1番（長根一男君）

おはようございます。

1番、長根でございます。

議長のお許しがございましたので、吉田町長に質問いたします。

質問する前に、2月9日から2月25日までの17日間の平昌冬季オリンピックについて少し述べさせていただきます。

六戸町民の皆様方に大きな感動と感激を与えてくれた日本選手団の皆様方に、感謝とお礼を申し上げたいと思います。

冬季オリンピックで史上最多の13個のメダルを獲得するとともに、最高の大会で自己ベストを更新する試合がたくさんありました。選手の皆様方のこれまでの厳しい練習、そして、日々の努力のたまものと思います。六戸の町民、そして子供たちに、精神力の強さ、日々の努力の大切さを教えてくれた、すばらしい冬季オリンピックだったと思います。これから開かれる冬季パラリンピックも楽しみながら応援したいと思います。

また、残念な事件もありました。米軍三沢基地所属のF16戦闘機が、エンジン火災のため基地近くにある小川原湖に燃料タンク2個を投棄した事件であります。六戸町北部の金矢岡沼地域にとっても近く、地域の方々に大きな不安を与えたと思います。今後、このような事故が起こらないように、再発防止策を構築するように抗議していかねばならないと思います。

それでは、早速質問に移らせていただきます。

1つ目の農業振興対策についてですが、30年以降、国、県、市町村による米の生産目標の配分がなくなりました。また、10アール7,500円の米の直接支払交付金もなくなりました。今後、六戸町の米政策に対してどのように取り組んでいくのか、お伺いいたします。

また、農業用機械等導入支援事業の補助金についてですが、平成29年度で終了であります。今後、継続する考えがあるのかお伺いいたします。

次に、2つ目の少子化対策についてお伺いいたします。

9月の一般質問で、少子化対策は結婚支援事業がなければ解決しないという趣旨で質問させていただきました。これについて何か検討していただいたのかお伺いいたします。

また、9月の質問の回答の中に県の出会いサポートセンターのお話もありました。町民独身の方々にPR活動をしていただいたのか。また11名ほどの登録会員があると伺っておりました。その後、ふえた人があったのか。また、利用した方があったのかお伺いいたします。そして、今後、六戸町で結婚支援のカップリング事業を実施する考えがあるのかお伺いいたします。

次に、3つ目の道路整備についてお伺いたします。

主要道三沢七戸線（県道22号線）についてですが、六戸町側は大分前に用地買収が行われていると聞いておりますが、三沢古間木地区のS字坂道の拡幅工事またはS字カーブの解決を県に要望する考えがあるのかお伺いたします。

以上、まとめて3点の質問でございます。

これで私の質問を終わります。

よろしく申し上げます。

議長 長（円子徳通君）

壇上からの質問はこれで終わるとのことですね。

（「はい」の声あり）

議長 長（円子徳通君）

町長。

町長 長（吉田 豊君）

それでは、お答えしてまいりたいというふうに思います。

まず、長根議員よりの農業振興対策についてのご質問にお答えいたします。

まず、国の米政策改革に対し、今後の六戸町としての対応についてということですが、平成30年度から、今ご質問にありますように、従来の国主導による米の生産調整が廃止されまして、生産数量目標の配分がなくなるとともに、主食用米を作付した場合、平成29年度まで交付されていた10アール当たり7,500円の米の直接支払交付金も廃止となりました。

これにより、生産者は国の意向に左右されることなく、米の生産量を自由に決めることができる反面、無計画な主食用米の作付が進むと過剰生産となり、米価下落につながる懸念されます。

このことから、県及び町の農業再生協議会が独自に生産数量目標を設定することとしておりますが、強制力を伴わない目安的なものでございますので、当町としても、生産者のご理解、ご協力を得るために、2月に町内各地区で制度改正にかかわる説明会を実施いたしました。

今後、県、農協、集荷業者とも緊密に連携しながら、安定した米の生産体制の維持に努めてまいりたいと考えております。

次の、農業振興事業の農業用機械等導入支援事業補助金について、平成29年度で終了であるが、今後、継続の考えがあるか否かということについてのご質問にお答え申し上げてまいりたいと思います。

農業用機械等導入支援事業は、平成27年度から29年度までの3カ年、各年度1,000万円の予算で、購入金額の20%、上限50万円を補助する事業として実施し、合計83名の方々にご利用いただきました。

内容は、ニンニク植えつけ機や、ゴボウ収穫機などの農業用機械の導入費用の一部として、総額2,900万円ほど交付されております。

この事業は、3年間の期限つき事業であったため、平成30年度では予算計上はしていませんが、農業振興にかかわる町単独事業として、農薬散布用ドローンのオペレーター技能教習研修費用の一部を助成する事業を新たに行うこととしておりますので、ご理解をお願いいたします。

次の、少子化対策でございますが、あおもり出会いサポートセンターの現在の六戸町民の利用状況についてでございますが、現在の六戸町民の利用状況は、県に問い合わせましたところ、2月末現在で六戸町民の加入者は、男性8名、女性3名の計11名となっております。昨年の9月議会で報告した人数と変わっていないということでございます。

2つ目の、今後、六戸町で結婚支援のためのカップリング事業を実施する考えがあるかということでございますが、9月議会でも同様の質問があり、その際の答弁の繰り返しになるかもしれませんが、当町では、補助事業として町商工会青年部が企画、実施していたカップリングパーティーがございました。さまざまな創意工夫をしながら継続実施しておりましたが、参加人数も少なくなり、平成28年度をもって休止しております。この状況は当町のみならず、近隣の町村でも同様の状況となっているようでございます。

当町を含め10市町村で構成します上十三・十和田湖広域定住自立圏では、新たに結婚支援をテーマとし、広域での効果的な取り組みの検討を始めるところであります。検討スケジュールとしては、平成30年度において、これまでの各市町村で実施してきた結婚支援事業の整理と検証を行い、また住民へのアンケート調査等も行い、広域での取り組み内容を検討することとしております。

当町といたしましては、今のところ新たなカップリング事業の具体的な計画はございませ

んが、今後、定住自立圏で検討される取り組み内容や、国・県の施策等を注視しながら、町として結婚支援のあり方を考えてまいりたいというふうに思っておりますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

次の3点目のご質問でございます。

道路整備についてでございますが、主要地方道三沢七戸線について、三沢市古間木地区の拡幅工事の未着工部分の整備について、県に要望する考えはあるかについてでございますが、主要県道三沢七戸線は、三沢市から金矢地区を通り、上北自動車道六戸三沢インターチェンジや東北新幹線七戸十和田駅へアクセスする幹線道路であります。

三沢駅から三沢商業高等学校付近までは拡幅工事等が進んでおりますが、ご質問の箇所は幅員も狭く、急カーブ、急勾配であり、冬期間の安全な通行確保の観点からも、整備が必要と認識しているところでございます。

この区間の整備については、三沢市では最重要要望事項として県に対して要望書を提出しており、今後も継続して要望活動を行っていくと伺っております。

三沢市管内の道路ではありますが、六戸町民も多く利用する道路でもあり、整備されると交通の利便性も向上すると期待されますので、当町の要望は、三沢市と協議しながら、協力的な姿勢でもっての協調としての検討を加えてまいりたいというふうに思っておりますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

壇上からの説明とさせていただきます。

議 長（円子徳通君）

これより、再質問に入ります。

1 番。

1 番（長根一男君）

助成金がなくなるわけでございますので、主食用米の調整配分が強制でなくなるため、再生協議会での調整がうまく機能しなくなった場合、今後、六戸町としても、農家にどのような方法で、値崩れしない稲作農家を、どのように指導できるのかを、ちょっとお伺いいたします。

議 長（円子徳通君）

町長。

町長（吉田 豊君）

先ほど申し述べたとおりでございますが、実際の1反部当たりの7,500円は廃止となりますけれども、わかっている方もいらっしゃると思いますが、何か詳しくわからない方もいらっしゃるようでございます。せっかくのご質問でございますので、担当課長のほうから詳細について説明、それから、町が行うべき今後の対策、廃止になって以降の心構えとございますか、それについて担当課長のほうから答えさせたいというふうに思います。

議長（円子徳通君）

産業課長。

産業課長（高橋宏典君）

お答えいたします。

今年度、平成29年度までございました米の支払直接交付金、1反部当たり7,500円の交付がありました主食用米への交付金でございますが、29年度をもって廃止ということになりました。あわせて、国の主導によります米の生産配分の数量の割り当てについても29年度をもって廃止ということで、30年度においては自由につくると、作付できるということになるんですが、先ほど町長の答弁にもありまして、無計画に作付が進みますと値崩れを起こすということで、全国的に、県及び市町村の再生協議会が独自に生産数量目標を設定いたしまして、各農家の方へ配分するという形に進む予定でございます。

答弁でもありまして、強制力を持たない生産目標数量ではありますが、29年度、今年度では、実績で、面積換算にしますと641ヘクタールの生産数量の目標が配分され、実績がございます。30年度におきましても、同様の641ヘクタールの生産目標の数量配分を町及び県が配分予定でございます。

以上のことから、昨年と同等の作付をしていただければ、十分、生産目標の数量の達成は可能であると考えております。

なお、野菜の交付金、助成金なんですが、今現在のところでは、昨年度と変わらない助成金の交付を考えてございます。米に関しましては加工用米に手厚く、町のほうで独自の交付金の、加工用米の作付に対して町独自の交付金の配分を考えておりますので、町民の皆様

はそちらのほうに取り組んでいただいて、より多くの収入を上げていただくように町では考えております。

以上です。

議 長（円子徳通君）

1 番。

1 番（長根一男君）

ありがとうございました。

昨年と変わらない取り組みということで、まず安心しておりますが、農業新聞に、東北地方を中心に一部産地が業務用米を増産する動きがあるという、北関東の米卸は18年産も業務用米の不足感が続くと。業務用の米が不足しているという記事が出ておりました。そこでやっぱり、主食用米でありますけれども、業務用米としても六戸の「まっしぐら」のPR活動していけないものか。そしてまた、そうすることにより六戸産の米がよりよく売れていくのではないかと思いますけれども、PR活動についてはどのように考えているかお願いいたします。

議 長（円子徳通君）

産業課長。

産業課長（高橋宏典君）

お答えいたします。

「まっしぐら」の販売促進PRに関してなんですが、昨年も、今年度も行っておりますが、県を主導にしまして、「まっしぐら」の販売促進に関するPR活動行っております。

町内の飲食店、もしくは町外の飲食店でもごらんになったかと思うんですが、小さなのぼりに黄色の「まっしぐら」のマークが入ったのぼり、もしくはポスターを提示しまして販売消費、特に業務用米として「まっしぐら」は人気があり、取引需要が盛んなんですが、県内における需要がまだまだ低迷しているということで、町民もしくはまた県民として、これからも「まっしぐら」をどんどん消費していこうということで取り組み活動をしておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

議 長（円子徳通君）

1 番。

1 番（長根一男君）

ありがとうございます。

今後ともPR活動をよろしくお願いいたします。

次に、農業機械の導入支援事業補助金は、農家の方々から大変助かったと喜びの声を聞いております。ただ、3年間だけですと補助金を受けられない方々がたくさんおります。ぜひ新しく申し込みする方に限り、もう3年間延長する考えがないか伺いいたします。なかなか高額なコンバイン、トラクターなどは、すぐに購入できるものでもありませんので、ぜひとも、もう一度考え直していただけないか、続ける必要があると思っておりますけれども、町長のほうから、今後の、先ほどは考えていないということでしたけれども、農家の方々が大変要望しているという点では、どのように考えているかお聞かせいただきたいと思います。

議 長（円子徳通君）

町長。

町 長（吉田 豊君）

基本的に、農業地「ベジタランドろくのへ」でございまして、人手不足も踏まえ考えますと、機械力という部分に依存というのは、これはもう紛れもない、これからの時代の状況だなというふうに思っておりますので、機械の導入にかかわる部分で、真に必要なものに関しての支援ということは絶えず考えております。

ただ私ども、こういう助成事業に関しまして、基本的に3カ年という一つの区切りをもって、その経過を見ながら、また新たに考えましょうという形で、期限つき一元的な補助事業としてやってきております。今、29年度でそれが終わることになったんでありますけれども、先ほど申し上げましたように、新たにニーズとして、新たに必要として求められてきておりますドローンの活用、何と申しますか、農薬散布用のヘリから非常に精度高く散布できるという意味でのドローンという部分が出てきておりますので、それを活用できるような環境をまずつくろうと。あわせてまた、農機具等における新たな栽培の仕方、またその利

用の仕方、それらの中に必要性が出てきた際には、同様の機械ということばかりじゃなくて、農家の方々の本当に助かるであろうところの求める場合においては、新たにまたその支援事業というものを続けていくということは、同じように3年とか、そういう時限を持ちながら対応するということは考えてはおります。

ただ、30年度は今ドローンのほうをやりますのでということで、機械じゃなくてもウイルスフリーの件であったりしておりますので、切りかえながら絶えずやっっていこうかというふうに思っておりますので、30年度はそれがなくなったということをご理解いただければなというふうに思います。

議 長（円子徳通君）

1 番。

1 番（長根一男君）

今後とも、ぜひとも農家のために、町のほうで何かできるのかということを検討していただきたいと思います。

次に、少子化対策についてでございますけれども、9月にも質問しましたけれども、当町のほうで30歳から50歳くらいで独身の方々、男女でどのくらいおりますのか把握しているか、そしてまた差し支えなかったら教えてもらえないでしょうか。

議 長（円子徳通君）

町長。

町 長（吉田 豊君）

実際、独身なのか、独身を求めているらっしゃるのか、わからないものですから、なかなか個人的なものとして直接的に調査ということはしておりませんので、人数という部分は把握は具体的にはしておりません。

ただ、今ご質問がありますように、結婚はしてもいいんだけどという方、女性また男性、大勢いらっしゃるの私どもも捉えておりますので、カップリングパーティー等、先ほど商工会青年部と申しましたが、非常に献身的で、いろんなアイデアでもってやっていただきました。が、しかし、やはり、もちろんその中には成果もあったんでありますけれども、やは

り関係者、携わる方々が非常にご苦労が多かった。それと、やはり今度は参加してくれる人が少ないということもあって、今なくなっておりますが、やはり局地的な部分で当たるよりも、今、定住自立圏の広範囲の中で、みんなでもって持ち出し合って知り合うきっかけをつくったほうが、かえって可能性という確率が、いろんな方々が会うわけですので、いいのではないかということでございますから、今、定住自立圏のほうの準備をするようなところを私どもは待っていて、ともにそちらを活用しながらやっていきたいというふうに思っている次第でございます。

議 長（円子徳通君）

1 番。

1 番（長根一男君）

まだどういう形でやったらいいのか、私もちょっと戸惑っておりますけれども、ただ私たち議員で、長谷小学校、上吉田地区、そしてまた折茂小学校学区での、旧学区での地域の方々と議員全員で意見交換した中で、やっぱり一番共通の話題、そしてまた、六戸の残念なところとして、子供が少ない、お嫁さんがいない、後継者がいないという悩みが一番共通の話題として出ておりました。やっぱり地域活性化のために、やっぱり婚活事業が一番大切なのかなと。

六戸町では、小学校、子供のとか、定住促進に対してはすごく力を入れて、まず実績を上げられていると思いますけれども、その段階に入る前の結婚政策、また、男女の出会いの場の機会というものにもう少し力を入れて、子育てをするという手前の少子化対策、子供が生まれるというか、言葉がなんですけれども、そういう結婚させる、させたい、したい、そしてまた、その場に独身の方々が参加したいという、そういう方向性というか、独身の方々が集まってこられるような環境をつくれないうものか、検討してもらえないのか、町長のほうにお伺いいたしたいと思います。

議 長（円子徳通君）

町長。

町 長（吉田 豊君）

かなり前になりますが、私が議員で農業委員やっているころですから、農業委員会で結婚したいけどという方を調べたことがございます。それを正確とも言えるかどうかわかりませんが、言葉として、意見としての部分だったと思いますけれども、莫大な数が、当時は四百何名いたような気がいたしました。かなり前でございますけれども。男女合わせてですね。

今は、調べたら、いらっしゃるかもしれません。ただ、私としては、もう時代は、どちらかという陰にいるような、陰と言ったら語弊がありますが、黙っている感じが多かったんですが、今は結婚したいけどというような態度を示す方々がいらっしゃいますので、できれば、そういう方々がいらっしゃるのであれば、何人かこぞって堂々と結婚したいけどできないでいると、何かのあれを、我々も協力するからというような組織体でもできてくれば、その話を伺いながら、独自の意味合いでのクラブといいますか、普通は何かをやるクラブなんですけど、結婚しようという会、独身だけど結婚したい友の会でも何でもいいですから、そういうのでも堂々と出てくれば、私どもは協力してあげやすいなど。

というのは、なぜ言うかといいますと、「出てこい」ではなくて、やっぱりこれは個人的な感覚がありますので、我々から、あなた結婚したいならこっちに来なさいと言うわけにいかないものですから、そういう方々が何人かいらっしゃれば、私どもはそうだねと、堂々と、こうだよと、極端なことを言えば、名前をつけてやって、そういう若い女性がいたら、俺たちこうなんだけどさど声かけてもいいくらいの組織体ができるのであれば、私どもとして六戸独自の会をつくって、そして定住自立圏を含め、また他の地域、県のサポートセンター、それらのところに堂々と入り込んでいって、お願いしますということの活動もできるのではないのかなというふうに思っておりますので。

ぜひ、ご存じでしたら、皆さんでもって何人か、堂々と組織をつくれというような形でも言っていただければ、即、私どもとしては、表へ出てもいいよとご本人の判断があるのであれば、私どもはその組織体に対して、どうすればいいのか意見を聞きながら、協力するのかがどうするのか考えていきたいものだなというふうに思っております。

議 長（円子徳通君）

1 番。

1 番（長根一男君）

なかなか難しい問題でして、私、消防団の団員の方々も、懇親会等を行いますと、いや、

実質、結婚したいんだという声があります。ただ、進んで表に出ていくかといえば、そうではないんですね、やっぱり。自分では思っているんだけど態度ではあらわせないという方々が結構あると思います。態度にあらわせる方は、割と結婚が成功しているというか、結婚している方々だと思えますけれども、ぜひとも何かの形で、自分の考えをというか、結婚したいなという気持ちが表面に出てこられない人のためにも、何かやっぱり、どっちが先かと、今、町長のほうからそういう方々が集まってやれば、幾らでも役場のほうで応援したいと、ただ役場というか、その団体さんを押す力ができるということをおっしゃっていますけれども、なかなか窓口というか、そういうどっちが先かという、鶏と卵の話みたいになりますけれども、ぜひとも、今後、出てこられないというか、自分を表現できない方々が結構おられますので、やっぱり町のほうでも何かを働きかけていけないものかなということをお願いしたい。

そしてまた、先般、ちょっと話が変わりますけれども、農業委員会の方との話の中で、上十三地域内でのカップリング事業に取り組んでみたいという声があって、私は大変すばらしいことだなと思いました。まず、農業委員会の会長にちょっとお伺いしますけれども、今後、農業委員会のほうで、そういうカップリング事業について取り組む考えがあるのか少しお伺いしたいと思いますけれども、よろしくお願いします。

議 長（円子徳通君）

農業委員会会長。

農業委員会会長（金淵盛一君）

それでは、長根議員の質問にお答えします。

まずは、農業委員会といいますと、農地を守るというのが大きな役割でございますけれども、そのほかに、農業に関する問題点等があれば国に要請活動をしたり、そしてまた、今、議員が質問中のように結婚支援に携わる活動を試みたり、幅広く活動しております。

ということで、今、議員が何か考えはないのかということでございますけれども、実は、議員、9月の一般質問にも同様な質問をしております。その後、私ども委員会でこの話をしたことがございます。その中で、いろんな話が出てまいりました。農業委員会単独で実施したいということ、そしてまた、単独では無理だということ。そして、それじゃ、ほかの農業団体、組織を巻き込んだ形で進めていったらどうかという、いろんな話が出てまいりま

して、なかなかその場で結論は出せなかったわけでございますけれども、そうこうしているうちに、今のこの定住自立圏の話が出てまいりまして、もし、そちらのほうで、そういう話があるのならば、その定住自立圏構想の中でやるのであれば、私ども農業委員会としても積極的に参加し、そしてまた、積極的に協力していこうということで委員各自の認識は確認しております。

以上でございます。

議 長（円子徳通君）

1 番。

1 番（長根一男君）

ありがとうございました。

よろしくお願ひしたいと思います。

次に、道路整備について、ちょっとお伺ひいたします。

三沢市のほうでも重要課題として取り組んでいるという町長のお答えがありましたけれども、やはり金矢工業団地と三沢駅、三沢空港をつなぐ県道22号線が、大変、私たち金矢、岡沼地域においても、三沢市のほうに行く道路で、S字カーブ、そしてまた、坂道が急である。これからも冬が終わりますけれども、必ずあそこで事故を起こしたり横転したりする車があります。三沢市と協議等じゃなく共同で県のほうに要望できないものかお伺ひしたいと思いますけれども。

議 長（円子徳通君）

町長。

町 長（吉田 豊君）

ご質問もありますので、共同でもってという行動でもって対応してまいりたいというふうに思います。

先ほど、母良田議員さんからもありましたように、実は、信号もそうなのでありますけれども、その関連する中で、あそこは非常に危険な箇所ということになっています。今、ご質問のとおりでございます。私の記憶でいうと、40年以上前から、あそこを直しましょうとい

う話がありました。それは、県はもう予算を計上し、通って、しかし、用地の問題があつてご破算になり、次に橋梁をかけましょうということで、それも調査や何かの予算まで通った時代がございます。しかし、それもまた用地等の問題があつてご破算になりというようなことを繰り返してきた箇所でございます。

今、具体的な対応というのは、県のほうもないようでございますけれども、ただあそこは非常に危険な状況で、あのままでいいというふうには、県自身も、県のほうの道路整備のほうも考えてはいませんので、三沢市も考えておりますが、こっちになれば、金矢になれば六戸町になるわけですので、一緒にあそこの道路が早く進むように、ご質問がありますように、努力すべきは私どもの役目だなというふうに思っておりますので、このご質問を踏まえ、三沢市と協議しながら、この対応をしてみたいというふうに思います。

よろしく願い申し上げます。

議 長（円子徳通君）

1 番。

1 番（長根一男君）

ありがとうございます。

ぜひとも三沢市と共同で県道22号線の整備をお願いしたいと思います。

先ほど、町長のほうから、ちょっと収用とか土地取引の問題で、何か共有地で大変難しいと。私たまたま農業新聞で、土地収用、国土交通省は、私有地などを強制的に取得し、公共事業用地で使う場合、土地収用を迅速化するために地方自治体向けに手引きを作成するという新聞が出ておりました。6月ごろにまとめて自治体に配布するという、新聞に出ておりましたので、収用のほうも進まないことが、今、迅速化できるということがついておりましたので、ぜひとも、金矢、岡沼、また沖山地域の皆さんの県道22号線の拡幅工事が一番の強い要望でありますので、何とか早く改修に向けて取り組んでいただけますようお願い申し上げます、質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

議 長（円子徳通君）

町長。

町 長（吉田 豊君）

まず、用地取得に関するところでございますが、以前のような形では三沢市側のところもないようでございます。今は何が課題かという、実際の大規模工事、橋梁をかけるにしても大変な工事になりますから、あそこには工事費が相当かかるということで財政的なことが理由になり、または三沢市側から進んできている順番というのがありますから、そこら辺との関連になるのかなというふうに思っております。

また、土地収用にかかわる新聞報道の件でございますが、これは道路ですとか公園ですとか、用地が所有者がわからない、またはその相続的な形を整えられない、それが何年以上とかという、何か条件があるみたいでございます。今までだとそれで行き詰ってしまっているものがいっぱいありますので、それがスムーズにできるようにということでございますから、それはこの三沢七戸線に限らず今後の町の事業やいろんなものにおいても、用地がはっきりしている方は別ですけれども、そうじゃない方の場合、または、ずっと明治までさかのぼってもなかなか関係者を探せないとか、そういう場合には、もう強制的な意味合いの中で、ただし、これは公共的要素です。公共的公園とか道路とか、学校敷地なんかも入るかもしれませんが、そういう場合においてはできますよということ、それがまだ決定ではありませんが、そういうふうにいたしましょうということになっておりますので、将来においてはそれを活用しながら、スムーズに道路整備ですとか、そういう部分も進むのかなと。六戸も何か所かあります。でも、そんなに多いわけじゃないんですけれども。全然、もう相続とかそういうような手続きができないというようなところがあって進まないのがありますから、そういう部分は解決するだろうなというふうに思っております。

（「ありがとうございました」の声あり）

議 長（円子徳通君）

これで、1番、長根一男君の一般質問が終わりました。

以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

次の本会議を3月8日午前10時より本議事堂において再開いたしますので、本席より告知いたします。

本日はこれにて散会いたします。

お疲れさまでした。

ご起立願います。

礼。

散会（午前11時19分）